

家畜衛生だより 平成26年7月

紀北家畜保健衛生所	tel 073-462-0500
紀南家畜保健衛生所	tel 0739-47-0974
紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所	tel 0735-58-1481

【ハエ対策について】

夏になり、最近、さらにハエを見かけることが多くなってきているのではないのでしょうか。畜舎からハエを全て根絶するのは不可能です。しかし、何も駆除策を取らずに放っておくと、病原体を媒介したり、家畜にストレスを与え、生産性を低下させるなどの事態が起こります。面倒がらずにハエを駆除し、より衛生的な畜舎環境を保ちましょう。

1、ハエの活動期

ハエは、6～9月にもっとも活発に活動します。成虫になって5日後くらいから産卵を開始し、一度に50～100個の卵を産みます。卵から成虫になる期間は環境温度により左右され、気温20度では約20日、気温30度では1週間から10日で成虫になります。

2、発生源の対策

発生源は、糞尿のあるところ、飼槽、水たまりなどが主なところですが、これらの主な発生源について、まず次のような対策を実施しましょう。

- ① こまめに除糞すること。
- ② こぼれた餌を掃除し、置いてある餌には蓋や覆いをすること。
- ③ 水漏れ箇所を速やかに修理すること。

これらに加え、薬剤の併用もより効果的です。例えば、消石灰を使用したり、一般的な殺虫剤よりやや高価になりますが、**IGR** 剤(昆虫成長抑制剤)という幼虫の脱皮を阻害する薬剤も有効です。**IGR** 剤は、一般的な殺虫剤とはちがい、ハエの天敵となる虫を殺さず、条件が良ければ一ヶ月ほど効果が持続するという特性があります。

これらを実施することで、ハエ対策だけでなく他の病原体に対する効果も期待できます。

3、成虫駆除対策

成虫駆除には毒餌法が効果的です。ハエが好きな砂糖などに殺虫剤を混ぜ、ハエがよく止まる壁や柱に吹き付けます。ハエが休息する夕方や雨の日に吹き付けるのがより効果的です。

とはいえ、成虫駆除は一時的な効果であり、発生源の対策なしには十分な効果が得られないので、注意して下さい。

4、薬剤を使用するにあたり

どのような薬剤を使用するにしても、薬事法の使用基準を守り適正な量を、適正な方法で使用しなければ十分な効果が得られません。また、同じ薬剤を使い続けると、ハエが抵抗性を獲得し効果が弱くなることがあります。系統の違う薬剤を一定の間隔で、ローテーションしながら使いましょう。

最後に、ハエ対策はこの時期だけでなく、成虫の少ない時期の対策も重要です。一年を通してハエ対策に取り組むことが重要です。

気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご相談ください。

